

# 写真撮影者向けガイドライン

以下の指針は、パスポートなどの機械読み取り旅行書類に含める写真に関して国際民間航空機関 (ICAO) が定めた基準に従って作成されています。

この指針は、適切な写真を申請者に提供することによって、写真の不備による再提出に起因するパスポート申請手続きの遅延を防ぐためのものです。また安全上の理由からも、オーストラリア旅券局(APO)の基準を満たす写真を提出することが重要です。

## 撮影に利用できるカメラの種類

税関の出入国管理時の走査に適した写真を提供するには、正しい機械を使って撮影することが重要です。カメラは、以下のカメラの光学レンズと設定に関する要件に記載の基準に合うものを使ってください。また撮影に際しては正しい「パースペクティブ」を維持することが重要です。

撮影に利用可能な種類のカメラは、以下の通りです。

- 3000 x 2250 ピクセル (約8メガピクセル) 以上の画像サイズに設定されたデジタルカメラ
- インスタントフィルムカメラ
- 35 ミリフィルムカメラ

## レンズの焦点距離の設定

- 90 ~130ミリの単焦点レンズ (35ミリフィルムカメラ相当)
- 90 ~130ミリに固定された可変レンズ (35ミリフィルムカメラ相当)

## 写真の要件

- 写真の要件は、以下の通りです。
- パスポート申請書類提出の目前6か月以内に撮影されたもの。
- 縦 45-50ミリ、横 35-40 ミリのサイズであること。
- 申請者の顔と肩の上部までのクローズアップ写真であり、顔の縦のサイズ (あごの下から頭頂部) が32 ~ 36ミリであること。
- 写真の中央部に明瞭に撮影され、影がないもの。
- 高品質で、インクのシミや折り目がないこと。
- 適度の照度とコントラストで撮影され、自然な肌色に写っていること。

## 写真の背景

顔や髪の毛と背景のコントラストがはっきりするよう、均一の背景としてください。

好ましい背景色

- 18 %グレー

その他の推奨色

- クリーム
- ベージュ
- ペールグレー
- ホワイト

## カメラの光学レンズと設定に関する要件

- 90～130ミリの単焦点レンズ（または固定された可変レンズ）（35ミリフィルムカメラ相当）
- 顔に歪曲が生じるので、広角レンズやテレフォトレンズは使用しないでください
- レンズと被写体の距離は約1.2メートルとします。正しいパースペクティブで、歪曲なく適切なサイズで顔を撮影するためです。
- 口径は被写界深度を最大化する設定とし、約f16からf22になるようにしてください。
- シャッタースピードは、カメラのブレを防ぐために125分の1秒から250分の1秒（フラッシュシンクロの要件を満たす範囲内）にすることを推奨します。
- デジタルズーム技術は使用しないでください。
- カメラソフトウェアのシャープニング機能はオフにしてください。
- 「シャドーレス照明」を使って撮影してください。背景の影を消すためにスレーブフラッシュを用いてもかまいません。ただしフラッシュで被写体が赤目にならないよう気を付けてください。
- カメラ表示画面の顔サイズ用テンプレートを使って、正しい顔サイズになるように撮影してください。
- 最高品質のTIF（推奨）またはJPG画像になるようにカメラを設定し、ファイル圧縮は最小限に抑えてください。

## 被写体

### 表情とフレーム

被写体（申請者）が以下の条件を満たすように撮影してください。

- ニュートラルな表情。
- 単独撮影。
- （カメラの）正面を向いている。
- 他の人物や物体（おもちゃや家具など）と一緒に写っていない。
- 口は閉じている。
- カメラ正面を向き、肩越しの写真（肖像画スタイルの写真のよう）になっていない。
- 両目の中心を結ぶ線が写真上端と平行になるように顔を上げている。
- 両目を開け、髪の毛で目がかくれていない。
- 顔の輪郭がはっきりと見える。

### かぶり物

- 帽子などをかぶった撮影は認められません。
- 宗教上の理由で頭部を覆っている場合、あごの下から額の上まで（顔の輪郭も）がはっきりと見えていれば、そのままの状態でも撮影できます。

## 眼鏡

通常は眼鏡をしている人も、パスポート写真の撮影では眼鏡をはずしてください。

医療上の理由で眼鏡をしたまま撮影する場合には、以下の条件を満たす必要があります。

- 両目がはっきりと見える。
- フラッシュの光が眼鏡のレンズに反射していない。
- 医師からの診断書の提出。

## 顔ピアス

鼻リングやスタッドなどの顔ピアスはしていてもかまいませんが、ただし以下を条件とします。

- 申請者が常に身につけているものであること。

- 写真の中で光を反射させないこと。

## 髪の毛と耳

- 写真で耳が見えている必要はありません。
- 大半の髪型は(写真のフレームを覆う髪型も含めて)認められますが、髪の毛が顔を隠してはならず、顔／目が見えていることが条件です。
- イヤリングをしていてもかまいませんが、イヤリングが顔の輪郭を見えにくくしてはなりません。
- ヘアアクセサリーは、顔の特徴を見えにくくしない限り、認められます。

## 幼児

### 3歳以下の幼児

通常は、幼児の撮影も全ての撮影要件を満たして行うべきです。ただしAPOは、3歳以下の幼児に関しては撮影条件を多少緩和する場合があります。

## 印刷

### 画像作成の要件

撮影者は、以下の条件に従ってください。

- ポストプロダクション・ソフトウェアを使って、必要とされる印刷サイズの最小ピクセル以下に画像をトリミングしない(最後の「画像サイズ」の仕様を参照)。
- パースペクティブを変えるような方法で画像のサイズ変更を行わない。
- 被写体の見た目が変わるような方法で画像のリタッチや変更を行わない。画像はその人物の本当の姿を反映するものとしてください。
- ポストプロダクション・ソフトウェアの「シャープニングツール機能」を使用しない。
- ポストプロダクション・ソフトウェアで赤目や影を消さない。赤目の場合は撮り直しが必要です。適切なフラッシュ技術を用いて赤目にならないようにしてください。フラッシュの角度をやや下げ気味にすることを奨めます。
- 顔やその背後に影が写らないようにしてください。
- 顔に光が反射しないようにしてください。
- 顔のほくろやそばかす、しみなどを画像から除去しないでください。
- 圧縮しないTIF、BMPまたはPSDファイルとして画像を保存し、圧縮JPGとして保存しないでください。

### 画像サイズは以下とします:

- 300ppi プリンターを用いて撮影する場合: 35mm x 45mm (300dpi) または413ピクセル x 531ピクセル
- 400ppi プリンターを用いて撮影する場合: 35mm x 45mm (400dpi) または 551ピクセル x 709ピクセル

## 紙の種類と表面加工

紙の種類や表面加工の選択を誤ると、パスポート写真の画像品質に影響を及ぼす恐れがあります。

パスポート写真の印刷に用いることができるのは、以下の種類の紙だけです。

- スタンダードグロスのインスタント写真紙
- セミグロスの昇華型写真紙
- セミグロスの銀塩写真紙
- スタンダードグロスのドライラボ、インクジェットベースの写真紙

APOは、出来る限りすかし模様のない写真紙を使用することを奨励します。

以下の種類の紙は、使用しないでください。

- インクジェット紙
- コピー用紙
- すかし模様がたくさん入った紙

紙の表面加工については、

- 「セミグロス」の写真紙とします。

以下の表面加工紙は、使用しないでください。

- ラスター加工の写真紙
- マット加工 の写真紙
- ハイグロス加工 の写真紙
- インクジェット紙
- コピー用紙

写真の印刷は、以下の最低仕様条件を満たすプリンターで行ってください。

- フルカラー連続階調プリンター、印刷解像度300ppi以上。例えば、銀塩写真用プリンター（レーザーまたは同様の印刷エンジン）、昇華型プリンター（ローグロス紙を使用）、またはその他の6色による印刷プロセスを用いる連続階調プリンター。なお昇華型プリンターは（内蔵型、外付けを問わず）解像度300ppi以上とします。
- 印刷写真：8ビットRGBカラー（例：24ビットカラー）
- 紙の重量：180～290g/m<sup>2</sup>（スタンダード及びデラックス・ウェイトの銀塩写真紙が適しています）。
- 表面のグロス加工は認められますが、過度のハイグロス加工は認められません。

## 使用不可

- 銀塩写真用のアナログプリンターに「デジタルプリントのアタッチメント」を追加したプリンター（ただし300ppi以上のプリンターは除く）
- インクジェットプリンター（ただしアーカイバル写真紙及びインクの使用によって上記標準を満たす場合を除く）
- カラーレーザー/サーマルプリンター
- 昇華型プリンター（解像度300ppi以上のものは除く）
- 過度のハイグロス、ラスター、シルク、あるいはマット加工紙
- 重い裏張りの付いた感熱紙（例：350g/m<sup>2</sup>以上）
- すかし模様がたくさん入った写真紙（写真をAPOが走査する際にすかし模様が写り込むほどに入っているもの）